

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 22年 3月 26日 開始 10時00分 ~ 終了 15時30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 潮の香 ————— (広島県)
評価調査員の氏名	氏名 木下 政志
	氏名 豊田 美江
事業所側対応者	職名 管理者
	氏名 岡野 広邦 ヒアリングを行った職員数 (3)人

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471300214
法人名	社会福祉法人 若葉
事業所名	高齢者グループホーム「潮の香」
所在地	広島県尾道市因島中庄町字油屋新開4804番地 (電話) 0845-26-2148
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成22年 3月 8日

【情報提供票より】平成 22年 2月 25日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 平成 13年 10月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 8 人
職員数	9 人 常勤 3 人 非常勤 6 人 常勤換算 7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	造り 鉄筋コンクリート 5 階建ての 2 階 ~ 階部分
------	---------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	17,800 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含)	有 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	550 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 89 歳	最低	83 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	因島医師会・岡崎医院・藤田医院・ファミリー歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成 22年 4月 15日

当ホームは地域生活総合支援センター2階に位置し、障害者・高齢者の総合福祉として地域福祉の拠点となっている。グループホーム潮の香は社会福祉法人若葉が開設した認知症の状態にある方々に、安全・安心な生活の基盤を提供されている。2階のホームの一面に広い庭を配し、建物の周りを広々とした畑に囲まれ、散歩・買物にも適した環境にある。理念は玄関・リビングに掲示され、管理者及び職員の方々も理念をよく把握してそれに基づいた支援・介護がなされている。利用者のその人らしさ、残された能力を引き出しながら管理者・職員そして利用者が同じ目線で物事を捕らえ、会話の中から利用者の希望や要望を受け止めながら、具体的なケアプランを作成し、利用者の皆さんも明るく楽しく生活できる環境作りが来ているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価の結果を管理者・職員の皆さんも真摯に受け止められ、優先順を決めて取り組まれている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に付いて職員間で話し合い、その内容から管理者がまとめ、記載を行いその結果を職員にも伝えている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的実施されているが、夜間ということもあり行政職員の参加が少ない。運営推進会議を2ヶ月に1回実施し、地域及び関係者からの意見・要望を吸上げ地域の事業所として、地域福祉を含めた地域福祉のハブとなるような運営推進会議の実施が期待される。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>各職員が家族の訪問時には利用者を含めて「ケアプラン」についても話し合い説明する中で、利用者・家族の不安や苦情を聴き、利用者一人ひとりの「ケア」及び運営にも反映されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に参加し地域行事(夏祭り・溝掃除など)にも積極的に参加し、地域との交流を大切にされている。これから更に事業所の意義を伝えるためにも広く地域との交流を深めたい意欲が伺えた。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解した、利用者が馴染みの場所で、笑顔で暮らすことが出来るような理念が作成され職員及び訪問者がよくわかるように玄関・台所に掲示されている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員の出勤時等には理念を口ずさみ確認している。面談においても職員は理念を十分理解されている様子が伺えた。		
2．地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し地域行事（夏祭り・溝掃除など）にも積極的に参加し、地域との交流はある。これから更に事業所の意義を伝えるためにも広く地域との交流を深めたい意欲がある。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価について、管理者・職員の皆さん十分理解されていた。昨年の評価から地域とのお付き合いの重要性を理解され、具体的な進展が観られた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	行政職員及び民生委員・町内会等に案内し、金曜日の夜に実施されている。十分な参加者が望めない状態にあり、事業所からの報告事項が中心の会議となっている。		運営推進会議は年6回実施をしてほしい。尚行政職員の参加を促すために昼間に実施出来ないか？参加メンバーからの質問・意見・要望の吸上げが出来る双方向会議になるような配慮が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	スプリンクラーの件など、直接市役所との意見交換はなされているが、役所からの訪問は少ない。役所や地域包括センターなどとも連携し、地域資源の協同に繋がる連携に向けて更なる努力が望まれる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族には事業所の状況は「潮の香だより」で報告されている。尚各利用者の「ケアプラン」などは毎月1回家族に報告がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族に対して、生活相談・苦情相談出来る仕組みがあり、家族の訪問時は「ケアプラン」の説明をして家族の意見を聴き、ケア及び運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者及び家族との信頼関係を維持するために、職員が離職・移動する場合には、数日間新旧職員をラップさせて、利用者に不安を感じさせない配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT(働きながらの職員育成)が定常的になされており、職員研修にも積極的に参加されている。これらの研修報告は職員間にも水平展開されており、職員の方々の介護者としてのレベルも高い。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	因島の4つのグループホームと職員間の交流がなされている。尚利用者同士も他のグループホームを訪問するなどのネットワークを構築しサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者や家族に積極的にホームを見学してもらったり、空き部屋がある場合は数日間の体験入居してもらって、事業所での安定した生活が出来ることを確認して入居に移行している。このことから途中退去者が少なく長期利用者が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者の皆さんと職員が一同に介して和気藹々と過ごされている様子が伺えた。利用者が皆さんとても明るい雰囲気であり利用者がみな満足そうな様子であった。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者と職員の間におけるアットホームなかかわりの中で、言葉や表情の中から利用者の思いや意向を受け止めている。利用者がとても居心地よさそうに暮らしている様子が伺えた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者毎に担当者が家族の意見・利用者の要望を受け入れながら利用者一人ずつについて担当者を中心にケア会議が行われている。このことで職員全体に利用者の望みを反映した介護計画が作成されている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画の見直しは毎月1回実施され、極端な計画変更はなされていない。利用者の状況が変化した場合には、即座に警護計画の見直しが適切に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の認知症の方、ご家族等が訪問された場合には、事業所の取り組みについて細かく説明をしている。現在終末期ケアはないが、その場合は家族に付いて職員がバックアップする体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・ご家族の意向を取り入れたかかりつけ医となっている。利用者の意見を優先しながら、家族・主治医・事業者の連携は出来ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族と大まかな話し合いは出来ているが、利用者一人ひとりに付いて具体的な取決めは行われていない。		重度化に伴う意思確認書を作成し、終末期に向けて事業所が対応し得る最大の対応(ケア)について、家族・医師等を交えて話し合い明文化して、家族の承諾を得ておくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を目指して会議などの議題として取り上げ、利用者の誇りやプライバシーを損なわない取り組みがなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位(利用者の意見や希望)を取り入れながら柔軟な対応がなされている。職員の日々の対応が利用者の明るさに反映されている様子が伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物・献立作りにも利用者の希望・要望が反映されていた。食事中も残された機能・能力を活かしながらの気配りがなされていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は一応定められているが、利用者の状況により柔軟な対応がなされていた。風呂の手摺、滑り止めなど確認したが十分対応されていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴など勘案しながらの、残存能力を活用出来るような配慮がなされている。利用者がお手伝いできることがとても楽しそうであった。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて外出の支援がなされている。この場合の外出以外の利用者に対して、他の職員がフォロー出来る体制が出来ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの徹底がなされ昼間は玄関は施錠されていないが夜間は防犯のため施錠がなされている。各室にも利用者中心のケアがなされ、ほとんどの利用者はターミナルで楽しく生活されていた。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回総合支援センター全体で行われている。当ホームは5階立ての2階に位置しているため地震等の発生時にはホーム独自の避難経路のシュミレーション及び訓練をされることが望まれる。		災害が発生したことを想定した実践的な訓練と運営推進会議の議題として、さらに地域との交流の中で、地域との協力体制を強固にするための活動が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の栄養摂取・水分補給などの配慮は伺えた。その内容はワークシートや連絡帳に記載し職員全員が把握できる仕組みがある。定期的に栄養士や保健師の専門的な意見を聴く仕組みが望まれる。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>机・椅子・共用の和室など利用者にとって使いやすい配置になっている。掲示物も季節に応じた物が飾られ、同階の広々とした庭に自由に出入り出来、日光浴なども自由に出来る空間がある。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング、憩いの和室、それぞれの部屋にも写真や使い慣れた日用品が収められ、自宅に近い形でゆったりと暮らせる配慮がなされている。</p>		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 潮の香

評価年月日 2010年 3月 26日

記入年月日 2010年 2月 22日

記入者 代表/管理者 氏名 岡野 広邦

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とは・・・今住んでいる潮の香のある「地域」、入居以前に住んでいた仕事で過ごした「地域」、生まれ育った幼少期を過ごした「地域」を考え、地域行事や小旅行などの活動を考えていく事が、その人らしさにつながるのではないかと考える。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム独自の倫理要項を作成し、玄関、台所に掲示、または法人の理念を玄関に掲示している。研修会等で唱和したり、話し合っている。	運営理念の大切さを自分自身の経験をもとに話しをして職員に理解をしてもらっている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域行事への参加などを行なう際には家族への了承などを取ったりしているが、具体的な取り組みや話し合いは行なえてない。	施設 = 認知症と言う考え方が地域の人たちの中に多いので施設 = 別荘という考えた。または家族とのいい関係を保てる家と認識してもらえよう様に地域の方の意識改革をしていかなければならないと思う。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買物や散歩などで近隣の方とお会いした時は挨拶を行なうように話しをしている。	地域の方の来訪はほとんど無いので、総合支援センター全体として考えて生きたい。管理者になって日が浅いので職場内が安定していないので、積極的にはできてはいませんが仕事が流れに乗れば積極的に地域に出て自然な日常的なつきあいができるようには考えています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加は職員が行なっている。行事や地域活動は事業所地域と利用者さんが元居た地域の両方へ参加できるように活動している。	行事参加のみでなく趣味活動的なものへの参加も可能になるように努めたいので、まず職員が地域行事に積極的に参加し認知症という病気を理解してもらえよう様に交流をはかっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者がまずは自分の知人の家族等に話しをさせてもらい、社会福祉法人若葉には沢山のいるんな人材、職種、事業所があるので困った時には相談に来られてはと言っている。		総合支援センター全体としても考えて生きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価後は評価表及び要点をまとめ、法人へ提出。事業所内での研修にて周知徹底し、改善に取り組む。		今回の評価も生かして生きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者さんの近況報告、行事等の報告を行い、主に事業所側職員以外からの意見を頂くように努めている。		報告事項が主になっているのでそれ以外の運営推進会議のあり方を計画作成者と考えていくつもりです。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	なるべく市役所に直接行くようにしているが、市担当者が事業所に来られたことはない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人の研修会や法人内の他事業所の職員と連携をとれるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修にて学習の機会を設けたり、会議などで話し合いの場を設けている。		今後も徹底していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書について説明を行い、一度持って帰ってもらいご自宅でもじっくり読んで頂く様に努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>生活相談員、苦情相談員を配置し、利用者さんからの要望があった際には大きさに関わらず会議にて情報を流し(必要に応じて匿名にて)改善に努める</p>		GH職員以外に話しのできる機会を設けたい。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月中旬に「ケアプラン」に生活状況を、「潮の香だより」に写真を掲載し、配布している。また家族の来訪時には職員から口頭にて近況報告をしている。</p>		より家族にわかりやすく尚且つ利用者さんに沿ったケアプランを検討中
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>生活相談員、苦情相談員を配置し、入居者や家族に説明をしている。また法人内に評議員を設けている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>第2火曜日に運営会議を行い、行事や購入物、運営方針の話し合いを行なっている。また第4火曜日にはケア会議を行い利用者さんのケアに関する事項の話し合いを行なっている。</p>		潮の香では職員一人一人が色々なことを積極的に挑戦をしてみるように声をかけていて、よい結果であればそれをもっと深く掘り下げ発展させている。あまり効果が出ない場合のときは反省をし問題点を探してまた次に生かすようにしている。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>夜勤が1名体制のため、利用者さんの体調不良時には1名増員を行い対応している。</p>		総合支援センターとして宿直者も1名配置済み。これから終末期に備えて体制を検討中。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動や離職は極力抑えている。また家庭の都合などで離職した職員も時々か顔を見せてくれている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内学習会を開催している。また必要に応じ法人に届いている研修会の案内の情報を流している。		内・外部・本部研修を実施
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH花園さんの利用者さんが潮の香に來られて交流会を開きました。暖かくなったら潮の香の利用者さんが今度は訪問する予定。		因島のグループホーム職員との交流
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ある程度自由の利く勤務体制を組み、体調や家庭の事情に応じ臨機応変に対処している。		4階に休憩室をつくり30分の休憩時間を設けている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	新たな取り組みの提案があった際には利用者さんへの不利益が生じない範囲での実施を行なっている。		職員のマンネリ化がおきてないか、検討する必要がある。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主治医や担当ケアマネなどと一緒に話しをする機会を設ける。また、それ以外に相談があった際には秘密保持(必要時応じ利用者さんと管理者とケアマネのみ)し、対応している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主治医や担当ケアマネなどと一緒に話しをする機会を設ける。また、それ以外に相談があった際には秘密保持(必要時応じ家族と常勤とケアマネのみ)し、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、利用者さんに必要とされるサービス事業者、管理者、計画作成者、職員の話し合いの場を設けている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空き部屋のある場合は数日間の体験入居という形をとり、潮の香に馴染めるよう配慮している。		今後ディサービスと利用者さんが長期入院した時にショートステイを考えており、急に潮の香に入所という形ではなくゆっくり慣れてもらいながら自然な流れで入ることができるように体制を作っています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時に対等、時には上下があったりしながら利用者さんが職員に対し相談などをしたり、その逆に職員が利用者さんに相談をしたりしている。		職員と利用者さんが潮の香で家族のようにお互いを支えあう関係・場所を作っていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員の一方向的な意見を言わず、助言として本人を支えていく事をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居までの関係を把握し、家族への対応に配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅支援や地域行事への参加への対応を柔軟に行なえるように心がけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士がよい関係を保てるように日々の中や会議内にて話し合いを設けている。		関係は日々変化しているので、今後も努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談に柔軟に対応している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議などで「本人の思い」を「本人の言葉」で情報を流し把握、検討している。		言葉としてだけでなく、内にある思いも汲み取りたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の作成		入所された時は生活歴を知る事でその人の育った環境、病歴等を知る事ができケアにも活かされましたが年を重ねるにつれてその当時言えなかった事ができて、その思いを汲み取り今の利用者さんに必要なケアをして行きたいと思う。またゆっくり利用者さんと落ち着いた時間を共有して行きたいと思う。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケア会議での情報把握。利用者さんに心身の状況は変化があった際には専用の連絡ノートを作っているためにより詳しく状況を把握できるように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者を主とし、各利用者さんに1名ずつ担当者や配置、各担当者が中心となり、ケア会議などで本人の状況やケアについて話をしている。またその際に本人や家族からの要望を盛り込めるようにしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヵ月に1回介護計画作画書を作成しているため、今まで臨時に大きく計画変更をした事はない。もしそのような状況（大きな病気で入退院など）が生じた際には柔軟に対応して行く。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前々回の外部評価後に書式を変更し、運動量などを把握しやすいように書式変更をしました。		簡潔でより分かりやすい記入方法を作成中
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方からの家族の来訪に関しては、寝具などを貸し出し、本人の部屋に泊まれるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	主に地域の保育所との連携をとり、遊びに行ったり、お手紙を頂いたりしている。(芋パーティー、クリスマス会に参加)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内の居宅介護支援事業所への相談や連携、また必要に応じ以前担当されていたケアマネとの情報交換も行なっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までに行なった事はない。		具体的にどのように協働すればよいかを検討。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	終末期において家族、主治医、事業者との話し合い、対応を詰めている所。また、通常時においても家族の希望を聞き、家族、主治医、事業者の連携も持っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人の嘱託医等に必要に応じて相談、助言を求める。また必要に応じ専門医や精神科医への連絡を行なっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月、金曜日に1時間、看護職員（併設の高齢者デイサービス介護勤務）のバイタルチェックを受け、情報交換アドバイスを頂く。（その他の日は潮の香の職員が毎日バイタルチェックをする体制を作っている。）		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院前～中～後にかけて入院期間との経過や調整を行い、退院日時が決まればスムーズに受け入れられるように調整を行う。入院中の経過や退院時の情報は連絡ノートや会議の際職員へ連絡する。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	大まかな話はしているが、一人ひとり関した終末期の明確な取り決めは行なわれない。		事業者、職員で職員配置や対応等について話す必要がある。 また事業者、職員、主治医、家族で最終的な対応を決める必要がある。現在調整中
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、主治医、事業者にて今後の体制について話し、医療機関、主治医への、連絡方法、対応を聞いている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時にはご自宅へ訪問し、自宅の間取りや雰囲気把握している。GHからの転居に関しては事例はない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>会議等で話をし、プライバシー、尊厳の保護に努めている。またそのような事例が発生した場合には注意、訂正をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>状況に応じ口頭、文章（ポスター）などを使い分けている。自己決定を求める際にはなるべく時間をかけて行なうようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の出勤者の範囲内で対応できること（外出等）を行なっている。またそれ以外にも、緊急時やあらかじめ分かっている動きにかんしては調整、または臨時の出勤を行い対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行きなれた理美容室へ行けることを説明している。 (実際には「近いほうが楽」などの理由で行きつけの店にいかれているのは2,3名)</p>	<p>今後は家族と相談の上、出張の理美容サービスを使用予定</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日により個人が好きなものを取り入れたり、買物と一緒にいかれた際に利用者さんの希望により献立が変更されるなど、柔軟に対応している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>書式としてはないが、日々の会話の中でそういう話をしている。またその内容は会議などで話をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>基本的には体調不良以外は(職員意向による)オムツの使用はしていない。また使用する際には本人が納得された上で使用している。</p>		<p>利用者さんも高齢化が進んでいるので試験的にポータブル、リハビリパンツ等の使用をしながら本人らしさを応援している。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴時間は14:30~17:30ごろまでと一応決めているが、希望や失禁対応などに応じ柔軟に対応している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個人の休息や睡眠を妨げないようにその他の利用者さんへの対応を心掛けている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生活歴を作成し、日々の生活や会話に生かせるようにしている。また、その会話などから新たに情報をえた際にはそのことを会議などで共有している。</p>		<p>まだまだ本人さんのことの”一部”しかわかってないと思う。先入観をもって接するのではなく、その人のできることを見つけ出せる力を作っていきたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の管理については制限はない。必要に応じ家族から財布の中身をお聞きしたり、送金に関して情報を頂いたりして、金銭トラブルのないように努めている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>突発的な外出にも、他の利用者さんへ不利益がない様に対応している。事前に分かっている外出に関してはあらかじめ勤務表で調整し、職員で対応している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>クラス会や親戚の家、友達の家にいかれる際には家族と連絡を取り安全に参加できるようバックアップ体制をとっている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話などの制限はなし。電話や手紙に関しても一部手伝うことや投函などを支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	外来者が気持ちよくこれらに対応することを職員に徹底している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しくは理解しているかわからないが、開所から身体拘束はしていない。		勉強会の開催
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員側からは防犯の為夜間玄関の施錠以外に鍵をかけることはない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に居られる時にも安全確認のため、本人や他利用者さんに気づかれないように安否確認を行なっています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品がある場合にはまず外見を変えたり、職員が必ず側で対応するなどをして対応している。		突発的に起こる異食行動などを想定した環境づくり
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議などで情報を共有し、事故防止に努めている。緊急で必要な事項は連絡ノートや電話で対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期ではないが、対応について勉強したり、外部研修の情報を流したり、教本や対応などについてのマニュアルを用意している。		緊急時にはすぐ動けるように、定期的な勉強会。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回。総合支援センター全体で行なわれている。		GH協会などが主催する防災対策セミナーに参加予定
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に説明をさせてもらっている。発症などの新たなリスクに関して連絡をし、状況を説明、把握、承諾をもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変を感じた際には上司への報告、必要に応じ医療機関への連絡、救急搬送を行なっている。また長期的な病変や体力低下に関しては、専用の連絡ノートを作成しているので連絡を密にしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時に増えた薬は連絡ノートにて職員に連絡。副作用などがある際には顔色に注意するようになどの情報を流している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が長期続く際には連絡ノートに記入し、水分補給や頓服薬の服用、入浴時のマッサージを行なっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けや支援などを行なっているが。		職員間で徹底できるように現在している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事での水分補給が少ない方には食後の一杯をお出しするなどして対応している。またその情報をワークシートや連絡ノートに記入している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	各マニュアルを作り、流行時期には情報を流している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生ものの使用には注意をし、警報が出た際には特に注意し、食中毒予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	総合支援センター正面玄関に案内板を設置している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	展示物や掲示物は季節に応じ変更している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、憩いの部屋、椅子を設置し、好きな場所で過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使用している家具は使い慣れた物を搬入し、使用を促している。安全の範囲で自由に使って頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気温や換気には配慮しているが、構造上難しい部分もある。(はめ殺しの窓など)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやウレタン材を使用し、怪我の防止に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々混乱や失敗を防げるように支援し、突発的な混乱や失敗にも個別に対応できるように努めているが、構造上難しいときもある。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスでは、お茶会や焼肉、夏祭り、子供さんたちと遊んだり活用している。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		<input type="radio"/>	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)